

## 輸血前後の感染症検査

### ～「輸血手帳ひろしま」の活用事例～



広島赤十字・原爆病院 輸血部  
芝昭博・高浩恵・浦安美・楠木晃三・岩戸康治

広島県合同輸血療法研究会  
平成29年2月18日(土)

Hiroshima Red Cross Hospital & Atomic-bomb Survivors Hospital - Transfusion section

## 病院概要

一般病床 565床（平成28年9月1日現在）

内科、肝臓内科、腎臓内科、血液内科、内分泌・代謝内科、神経内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、精神科、外科、消化器外科、血管外科、乳腺外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、リハビリテーション科、リウマチ科、産婦人科、小児科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、歯科口腔外科、眼科、病理診断科（30科）

平成27年度 使用血液製剤数

赤血球製剤： 20,395単位  
血小板製剤： 178,950単位  
血漿製剤： 2,929単位  
輸血件数： 29,985 件  
輸血患者数： 1,331 名



## 導入にいたる経緯

- 厚生労働省の推進する「輸血後感染症検査の重要性を理解しその実施率を高める」ために、広島県の事業として広島県合同輸血療法委員会において「輸血手帳ひろしま」が作成された。
- 平成28年3月22日付けで県内医療関連5団体に通知された。
  - 広島県医師会・病院協会
  - 看護協会・薬剤師会・臨床検査技師会
- 県内の医療機関に配布する準備が整った。

## 当院における導入の目的

- 輸血後感染症の実施率の更なる向上
  - 平成26年6月より電子カルテのアラート機能による輸血後感染症検査チェックを実施
- 患者への輸血後感染症の重要性の広報
  - 手術に関連した輸血実施患者には案内を配付している

## 導入に当たっての検討事項

- 配付対象患者を選択するのか？
- 患者名・血液型・不規則抗体の有無・副作用の有無など**誰が**記入するのか？
- 輸血実施日・血液製剤の製剤種とロット番号は**誰が**記入するのか？
- 手帳を**誰が**患者に渡すのか？
- 患者に手渡した後、輸血を施行された場合、輸血実施日・ロット番号は**誰が**記入するのか？

## 配付対象患者の選択

血液内科・小児科の血液疾患患者は、頻回に輸血を行う為最終輸血施行日の判断が付きにくい

血液内科・小児科を除く全ての診療科の患者に発行する

## 患者情報の記入

お名前記入欄

---

あなたの基本情報

血液型： 型 Rh( )  
不規則抗体： 無・有  
"有"の場合は、  
検出日( )、種類  
輸血でのアレルギー歴： 無・有  
"有"の場合は、  
発生日( )  
原因となった製剤( )

\* 内容は、輸血を受けた患者様から記入してもらって下さい。

この手帳について、  
ご質問がございましたら、  
下記までご連絡ください。

お問合せ先  
広島県赤十字血液センター 学術・品質管理課  
電話:082(24)1-1290 FAX:082(24)54-176

❖ 誰が記入するのか  
❖ 血液型・不規則抗体の記入  
ミスを防ぐのか

↓

輸血部の検査技師が、輸血管理  
システムの患者情報を利用して  
ラベルを作成する

## 患者情報ラベル印刷例

広島日赤ID： 9000000-2  
テスト患者2

---

あなたの基本情報

血液型： B 型 Rh( + )  
不規則抗体： 無 ・ (有)  
※有の場合は、  
検出日( )、種類 抗a抗E  
輸血でのアレルギー歴： (無) ・ 有  
発生日( )  
原因となった製剤( )

患者間違いを防ぐため  
患者IDと患者氏名を印刷

血液型・不規則抗体の有  
無(有の場合、種類も)  
輸血でのアレルギー歴の  
有無を印刷する

## 輸血情報の記入

輸血施行日	輸血製剤 (シール貼付でもよい)
2017/2/18	製剤種： t-RBC-LR Lot： A ■ 99-9999-9999
//	製剤種： Lot：
//	製剤種： Lot：
//	製剤種： Lot：
//	製剤種： Lot：
//	製剤種： Lot：
//	製剤種： Lot：
//	製剤種： Lot：
//	製剤種： Lot：

誰が記入するのか

↓

輸血部の検査技師が、製剤を  
準備する時に行う

## 手帳の作成と患者へ届けるタイミング

輸血オーダーが入った時点で  
輸血部の検査技師が作成する

↓

❖ 手術で輸血が施行された場合  
「輸血後感染症検査受診のご案内」と一緒に患者に届ける

❖ 手術以外では、輸血を施行する  
時に、製剤と一緒に患者に  
届ける

輸血後感染症検査受診のご案内 (手帳表紙)

A4の用紙に印刷

- 配付者
- 配付後、輸血を行った場合の対応

① 誰が渡すのか。  
② 渡した後に、輸血を施行された場合、手帳に誰が記入するのか

① 看護師が手渡す  
② 渡した後に、輸血を施行された場合、患者に記入してもらう

患者に輸血後感染症検査を受けてもらう為の広報である事を説明  
看護師長会で協力を得た

## 決定事項

1. 血液内科、小児科を除く全ての患者に発行する。
2. 血液型などの患者情報は、輸血システムの情報を使用して、手帳を作成する。
3. 手術関連で輸血が実施された場合は、従来から使用していた「輸血後感染症検査受診のご案内」と一緒に患者に届ける。手術以外では、輸血を実施したその日に患者に届ける。
4. 患者へは看護師より手渡してもらい、以降は患者に管理してもらう。
5. 総合医局会で説明後、平成28年7月1日より開始とする。

## 輸血手帳の発行状況

発行人数（平成29年2月10日現在）

304名

診療科	発行数	診療科	発行数
整形外科	100	消化器内科	60
外科	46	呼吸器内科	23
泌尿器科	15	腎臓内科	15
リウマチ科	10	循環器内科	10
産婦人科	7	内分泌・代謝内科	6
脳神経外科	3	神経内科	4
耳鼻咽喉科	2	渡せなかった（救急外来）	1
皮膚科	1		
歯科口腔外科	1		

## 輸血後感染症の実施率 （血液内科を除く）

導入前

導入後

導入前		導入後	
年月	実施率	年月	実施率
2016年 1月	55.2	2016年 7月	62.5
2016年 2月	54.5	2016年 8月	57.9
2016年 3月	52.2	2016年 9月	nd
2016年 4月	73.3	2016年10月	nd
2016年 5月	55.6	2016年11月	nd
2016年 6月	61.1	2016年12月	nd

・実施率は輸血前感染症検査実施後、5ヶ月目までの結果  
・転院や死亡された患者は除く

## 導入の結果

1. 輸血後感染症検査の実施率向上を目的としたが、実施率に変化は見られない。
2. 輸血実施患者に輸血手帳を作成し、患者に手渡すのみでは、輸血後感染症検査の重要性が十分に認知されていないと考えられる。

## 今後の課題

1. 輸血後感染症検査の重要性を患者に理解してもらうためには、手帳の趣旨を十分に説明する機会を作る必要がある。
2. 患者が転院した場合に、輸血手帳の利用状況が把握できていない。
3. 頻回輸血を行う血液疾患患者にも使っていく必要があると考える。